# OB 会　学術講演会

今回の学術講演会は、留学報告を兼ねて『英国での海外派遣を終えて−日英超高齢者健康維持に対する疫学研究−』と題して、現在　日本大学歯学部歯科補綴学教室Ⅰ講座　専任講師　としてご活躍中の学部 35 回卒　飯沼　利光　先生にお願いしました。

講演は　平成 27 年 5 月から 6 ヶ月間　英国、Newcastle の Newcastle University School of Dental Sciences に visiting researcher として留学されていた際の日常生活、研究活動報告でした。

まず初めに、我が日本大学の留学システムについてご報告があり、卒後年数が上がるとその期間・留学費の負担等に差があるということに驚かされかした。Newcastle University School of Dental Sciences の大学および病院は医科・歯科同じ敷地内にあるということもあり施設が充実しており図書館に関しても 24 時間使用できるという恵まれた環境であったということが写真などで提示されていました。また、留学生のための宿泊施設に関しても、世界中から様々な研究者を受け入れている大学とあって様々な人種に対応した充実した設備が備え付けられていました。夏季休暇を兼ねて、OB である奥様や御子息との旅行風景などは英国を訪れたことのないものにとっては新鮮味のある風景ではなかったではないでしょうか。

日英歯科事情の違いとして、日本では厚生労働省の歯科医師国家試験に合格しなければ取得できない歯科医師免許が、英国では大学を卒業すると自動的に取得できるという驚愕の事実。ある意味、大学教育がそのまま臨床や学術に直結し、学生教育システムが確立しており日本の各歯科大学のレベル格差・国家試験合格率とは無縁なのかもしれません。

そして最後に、英国の歯科医療について。英国では日本と同様に国家予算を基にした NHS(National Health Service)により国民保健サービスが提供されており、皆保健制度による日本の医療あるいはケアシステムとも多くの共通点を有しているとのことです。しかし、歯科医師の数は日本に比べ少なく経済的には恵まれており、また、ニューカッスル大学は英国の加齢に関する国家プロジェクトの重要拠点として、医科、歯科はもとより人口統計学、人間工学、心理学、経済学、看護学等々が協力し、Institute for Aging and Health (IAH)を組織し、様々な観点から研究、臨床およびその成果の社会へのフィードバックを行って入りとのこと。今回、IAH と共同で行っている、「口腔環境が高齢者の食生活に及ぼす様々な影響と、それがその後の生・死にどう関わるか？」について報告もありました。

昨年と同様、開業している OB にとっては自身の生活とは違った非日常の生活を聴講でき楽しい時間だったのではないでしょうか。ありがとうございました。

文責　甘利　佳之